

勤務医変更のお知らせ

ブレストセンター

2023年4月1日より、乳腺外科の勤務医に変更ができましたのでお知らせ致します。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

新入職 4月1日～



ブレストセンター長
みつどう ゆうこ
光藤 悠子

【資格】

日本外科学会 外科認定医・専門医
日本乳癌学会 乳腺専門医
検診マンモグラフィ読影 認定医 (A判定)
厚生労働省 臨床研修指導医
日本臨床栄養代謝学会 認定医
緩和ケア研修会 修了



医員
ふじの まこと
藤野 麻琴

【資格】

検診マンモグラフィ読影 認定医
乳がん検診 超音波検査実施・判定医
緩和ケア研修会 修了

ごあいさつ

日本における乳癌の罹患数及び死亡数はいまだ増加傾向にあり、日本人女性では罹患率の最も高い癌となっております。罹患数は多くとも乳癌による死亡率が低下傾向に転じている欧米諸国と比較しますと、日本は検診率の低さが目立ち、現状の要因の一つと考えられます。地域の先生方におかれましては、是非患者様に乳癌検診を推奨頂き、二次検診を要する方はご紹介下さい。また、乳房のしこりや変形、乳房皮膚の色調変化や乳頭分泌、乳頭乳輪部の皮膚の変化など自覚症状を認める患者様は乳腺外科受診をご指示下さい。

この4月より当科は常勤医3名(内乳腺専門医2名)となり、診断から治療および術後フォローまで他科及び多職種と協力して診療を行います。精査や乳癌診療及びフォローに必要なマンモグラフィ検査や乳腺超音波検査、乳房MRI検査はもちろん、乳房PET、CT検査、Ri検査やPET-CT検査、骨密度検査などが揃っております。また、診断および治療には組織検査による精査が重要となりますが、針生検、吸引式組織生検、ステレオガイド下マンモトーム生検検査が可能であり、病態に応じて生検方法を選択します。

乳癌はタイプと病期により、その治療方針が異なります。当科では科学的根拠に基づいて推奨される治療を基本に、患者様の価値観やご希望、社会的背景などを含めて治療方針を検討致します。早期乳癌の場合は手術、薬物療法、放射線治療などを駆使した集学的治療で根治を目指し、根治が難しい手術不能あるいは転移再発乳癌については、病状と患者様の希望に基づく診療をともに検討する方針です。

手術については根治性と整容性を考慮し、再建をご希望の場合は形成外科と連携して術式を検討致します。また、放射線治療は局所療法・緩和目的となることが多いですが、予後にも関わる重要な治療の一つです。薬物療法はホルモン剤、抗癌剤、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤など様々な副作用を伴う薬剤を用います。患者様が安全に安心して治療を受けられるよう、他科との連携はもちろん、かかりつけ医である先生方と診療情報を共有させて頂くことが重要と考えております。

多くの場合、乳癌治療は長期戦となります。患者様が癌を抱えながらも自分らしく、少しでも前を向いて生活して頂けるよう診療に努めて参りますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

光藤 悠子

2023年4月発行



医療法人 徳洲会

宇治徳洲会病院 | UJI-TOKUSHUKAI MEDICAL CENTER

医師体制は眞島部長に加え今回女性医師の光藤部長、藤野医師の3名体制になります。今回、専用の外来スペースを新設しました。

診察室4室あり、1室エコー下生検室があります。説明面談室もありゆっくり話を聞けます。遺伝子カウンセラー外来も開設しており、遺伝子異常による乳がんも十分に対応できます。早期診断に有用な乳腺 PET 検査をしています。マンモグラフィは新機種に更新しました。

手術室では、乳がん手術時に有用なリンパ節のリアルタイムプロジェクションマッピングを使用し、より確実な侵襲の少ない手術を施行しています。



ブレストセンター待合・外来

マンモPET-CT

乳腺専用PET装置です。他の装置やマンモグラフィ検査のように乳房を圧迫(挟む)することなく検査が行えます。検査台にうつ伏せで寝ていただき、検出器ホール(筒)に片側の乳房を入れて女性技師が検査をします。



マンモグラフィ

最新のフルデジタル・マンモグラフィシステムです。スクリーニングからステレオバイオプシー、トモシンセシスを使用した画像診断から精密検査まで幅広く対応できます。



ICG蛍光観察装置「MIPS」

プロジェクションマッピングの技術を応用し、患者の体表や臓器にリアルタイムで直接手術ガイド情報を投影できる新システムを採用しております。

